

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立上神谷支援学校
校長 徳和則

令和7年度 重点目標 (1) 個々の児童生徒の気持ちに寄り添い、自立活動を基盤としたニーズに応じた支援を行うこと (2) 主体的・対話的で深い学びの視点に立った教育活動 (3) 支援学校教員としての指導力・専門性の向上 (4) 支援学校のセンター的機能の充実とインクルーシブ教育システムの構築

学校の現状 小学部でめざすこと) 低学年は、様々な遊びなどを通して教師との深く強い関係を築くことで学校生活を楽しむ態度を育成する。また、その取り組みの中で日常生活の基本的な習慣を身につけていく。 高学年は、低学年で築き上げた教師との信頼関係をもとに、クラス活動等を通して日常生活のスキルの力を養う。また、教科学習等で行われる多様な集団で少しずつ自己コントロールする力を養っていく。 中学部でめざすこと) 中学部は、地域の学校から進学してきた生徒が加わり、様々な障害や発達段階の集団となる。小学部・小学校で学んできたことの積み重ねの上に、自分の生活に見通しと目標をもち、仲間と協力して自信をもって行動する態度を育成する。各教科の特色を生かした活動及び様々な集団での仲間との活動を通じ、自立と社会参加をめざし、将来の生活に役立つ力やさらに生涯にわたって生活を豊かにする力を養う。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認	達成状況	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	子ども理解に基づく学習指導	児童生徒一人ひとりの実態把握を確実にし、教職員間の情報共有を密にすることで適切な指導と必要な支援に努める。	学年会議や小学部・中学部別の事例研究を通じ、子ども理解を進める。年4回の授業づくり研修を実施する。	主に教職員及び保護者対象の学校アンケート	学校教育アンケート	3学期	○ 学年や部で情報共有を行い、それぞれの子どもの実態把握に努め、関係者間で連携を図った。その上で、子どもの主体性を尊重した支援に取り組んでいる。	○ 保護者の95.2%、教職員の98%がおおむねできているという評価であった。継続して、適切な指導・必要な支援を行っていく。	○ 新学年になった時に、子どもの情報を校内でしっかり共有して欲しい。
	専門性の向上	校内研修を実施し、教職員の指導力・専門性の向上を図る。	年4回の授業づくり向上のための校内研修を含め、全校的な授業研究会を実施する。授業づくりの他、自立活動理解、ICT活用、外部専門家の取組共有、人権教育、自閉症理解、発達理解、道徳教育の研修等に取り組む。	教職員対象の学校アンケートや研修全体反省会	学校教育アンケート	3学期	○ 昨年度に引き続き、授業づくり研修を進め、教職員の授業づくりの意識向上に取り組んでいる。その他、ICT活用研修、発達に関する研修、自閉症理解、人権研修等を実施し、専門性向上に取り組んだ。	○ 年4回の授業づくり研修、発達、自立活動、ICT機器活用、OB保護者による人権研修等を実施。各研修について教員からは、専門性向上につながった等の意見が多かった。	○ 先生の専門性を高めるために研修に充実に取り組んでほしい。
豊かな心・健やかな体	障害の改善・克服	「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の理解を深め、作成する上で、チームとして検討し、児童生徒のニーズに応じていく。	合理的配慮の記載等、個別の教育支援計画等の理解を深め、児童生徒の実態把握を十分に行ったうえで、保護者と共有しながら的確な目標設定に基づく指導に努める。	主に保護者対象の学校アンケート	学校教育アンケート	3学期	○ 「個別の教育支援計画」の作成や「個別の指導計画」の内容について、各保護者と十分に話しながら、取り組んだ。	○ 「個別の指導計画」は保護者の98.9%、「個別の教育支援計画」は保護者の98.3%がおおむね満足しているという評価であった。	○ 子どもの実態に合わせた指導を今後も考えて行ってほしい。
開かれた学校づくり	センター的機能の充実	外部専門家派遣事業を活用するなどし、幼稚園、小・中学校、高等学校への地域支援を充実させる。	地域支援として、ST・OTと連携し、相談業務を50回以上行い、その他にも独自の相談活動を実施する。	数値目標に沿った評価と夏季の公開研修に対するアンケート	数値目標	3学期	○ 外部専門家派遣及び、本校コーディネーターを、要請により派遣した。	○ 地域支援として48回(1月末時点)の外部専門家派遣を実施した(年度末までには50回を超える予定)。また、本校コーディネーターが必要に応じ、依頼のあった学校を訪問した。	○ この取り組みを継続して欲しい。
	家庭や地域との連携	毎日の連絡帳や学校からの情報発信並びに教育相談等により保護者との連携を図る。	連絡帳や教育相談等から、保護者の思いや悩みについて理解し、課題に対応する。できる限り1日1記事、HPに発信する	教職員及び保護者対象の学校アンケート、HP発信数	学校教育アンケート 数値目標	3学期	△ 連絡帳と電話等により保護者連携を密に行っている。HPの記事の頻度は例年に比べ少なくなっており、頻度をあげるようにする。	△ 保護者の93.9%が学校からの情報提供に満足しているという評価であった。しかし、HPについて、自由記述には更新回数の向上を求める声が寄せられていた。1日1記事をあげるように、連携をはかる。	△ HPについて、掲載にかたよりがあるので、改善してほしい。
		近隣校との学校間交流、居住地での居住地校交流を推進する。	近隣校への啓発を含めた、学校間交流を近隣校と相談の上、実施する。また、居住地校への案内を行い、居住地校交流を実施する。	交流についての教職員アンケートや教職員等への実施状況聞き取り調査、居住地校交流の実施回数	実施状況聞き取り調査	3学期	○ 地域の小中学校に交流の実施について依頼。近隣の小中学校との交流や美術作品の交流を実施予定。	○ 地域の小中学校の誘いを受け、居住地校交流が実施できた。近隣小学校との交流を実施。近隣中学校と美術作品の交流を実施した。	○ 御池台校区との連携をはかっていくことも大切である。

校長より) ●今年度も児童生徒数が増え、1学級の人数を増やす対応をする学年があった。140人近いスタッフがいる中で、引き続き、研修を重ね、専門性向上に取り組んでいく。●体育祭の11月開催、音楽発表会の2月開催(今年度は1/31)で、スムーズに活動できている子どもは多かった。しかし学校として2学期から3学期の運営について、整理は必要である。●HPについては、学校内の業務過多のため、掲載頻度が大幅に減ってしまった。できる範囲で、学校で協力しながら掲載量を向上させるようにする。

学校関係者評価者から
校内で適正な人事を行っていただき、先生たちが負担感がないように気を付けて行ってほしい。